



プロダクトレビュー “今日の診療 WEB 版”

沼田 久美

I. はじめに

このたびのご依頼に際して、「電子ブックに沿った説明を」とのご指示をいただいたのですが、ご紹介する“今日の診療 WEB 版”は最近話題の Amazon の Kindle や Sony Reader、iPad などを読むような電子ブック製品ではありません。そのため、はたしてみなさまのご期待にお応えできるような内容となるか大いに不安です。しかしながら、書籍を電子化した製品であり、電子化することで、より便利に多角的にお使いいただけるようにしたもののなので、広い意味で電子ブック（あるいは電子書籍）と言えるように思います。その前提でご紹介したいと思いません。

II. 今日の診療 WEB 版について

1. 製品の種類と利用条件

今日の診療 WEB 版は、“今日の診療”をインターネット経由にて、ブラウザでご利用いただく製品ですが、その他にも単体のパソコン用の“今日の診療 DVD-ROM”、病院内などのネットワークで使用する“今日の診療イントラネット版”、電子カルテと一緒に使用する“今日の診療電子カルテ版”など、多くのバリエーションがあります。また、収録コンテンツ数によってプレミアムとベーシックがあり、使う方的人数によって個人と法人などがあります。

2. 電子出版アワードロングセラー賞受賞

それらすべての製品の元となった“今日の診

療 CD-ROM”（現在は同 DVD-ROM）の初版の発行は 1991 年ですので、2010 年 6 月に発行を予定している Vol. 20 で、文字通り 20 周年を迎えることとなります。一般に電子書籍はまだまだ未確立の分野で、技術革新も激しいため、多くの製品が現れては消えるというような状態にあります。その中で今日の診療は 1991 年の初版発行以来、非常に多くの臨床の先生方、また病院などの施設にてご愛用頂いており、高い評価をいただいていると自負しております。そうした実績が評価され、“2009 年電子出版アワードロングセラー賞”を受賞しました（図 1）。これは日本電子出版協会という団体より、10 年以上の長きにわたり、発行を続けてきた電子出版物の中で、最も優れた製品に対し与えられる賞です。2009 年度は、今日の診療がその榮譽に浴することができました。



図 1 電子出版アワードのロゴ

3. 製品コンセプト

今日の診療の初版発行に際し定めたコンセプトは、“診療に求められる多くの情報を収載する”ということと“直感的に操作ができる”ということでした。

そのため当社の臨床医向け書籍の中でも評価の高いタイトルを、数多く収録しました。検査→診断→治療→処方の流れをカバーできるよう

に「臨床検査データブック」「今日の診断指針」「今日の治療指針」「治療薬マニュアル」を揃え、それを補佐する書籍も収載しました。また「今日の治療指針」は、毎年全頁改訂をしておりますので、比較のために、前年のものと2年分収録することとしました。

アプリケーションにつきましては、操作マニュアルなどを読まなくても、直感的に使えることを目標に、徹底的に使いやすさを追求しました(図2)。書籍を読むのに操作マニュアルは要らないわけですから、これまで書籍を発行してきた私たちにとりまして、ごく自然な目標でした。また、そうでなければ読者が書籍の代替えとして納得して使っていただけないだろうとも考えました。

以来今日までの19年間、これらのコンセプトを変えることなく、発行を続けております。しかし一方では前述のとおり、媒体、利用可能人数、利用環境、収録書籍数などの需要の変化に柔軟に対応し、多様な環境やニーズに適応する製品を豊富に提供してまいりました。こうして基本のコンセプトは変えずに、バリエーションを増やしてきたことが、ロングセラー賞を受賞し、20周年を迎えることができた要因ではないかと思っております。

冊となっています。これは、それだけ多くの情報が臨床に必要なことを示しており、その意味では現在の12冊をもってしても充分ではないのかもしれませんが。

そのように検索対象を増やすことは、もちろん良いことですが、反面、必要のない情報まで提示してしまうデメリットも抱えることとなります。そのため、今日の診療では、常に検索機能の見直しを行っており、特に2010年度版からは、検索結果の表示において、Googleなどで親しみのある、いわゆる“スニペット表示方式”も選択可能としました(図3)。これによりヒットした項目名と、その語句を含む記述が一緒に表示され、目的とする項目の選択がより容易になりました。

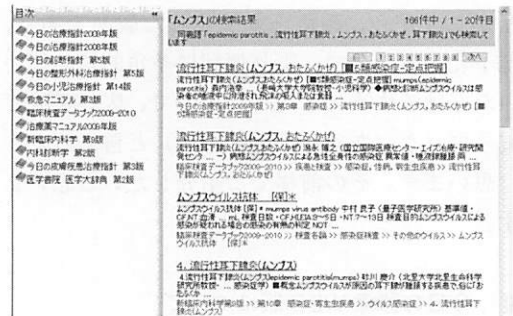


図3 スニペット表示方式

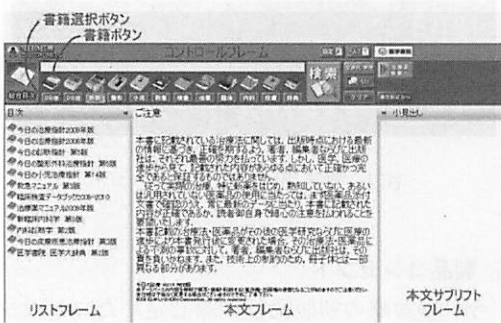


図2 今日の診療表示画面

4. 検索機能

収録書籍についてはこの19年間で徐々に増加させ、現在の「今日の診療プレミアム」では12

速度や方式など、基本的な検索の機能にも改良を加えてきました。今日の診療WEB版には、12冊の書籍から約8,800項目、ページ数にして約17,000ページが収録されていますが、この膨大なデータベースからでも一瞬で検索することが可能となっています。また、全文検索エンジンを用いているので、本文のどこかに小さく書かれている語句も、その語句が項目名となっている項目も、どちらも確実にヒットします。しかしその両者が同じように表示されては、選択する際に不便なため、その語句が項目名にある場合は、検索結果の上位に表示されるようにし、項目名にない場合は、その語句が記述されてい

回数の多い順に並べています。これを“検索の重み付け”と呼んでいます。こうした地味な機能を毎年チューンナップすることにより、使い勝手を向上させております。その他、and/or 検索による検索結果の絞り込みや、あらかじめ検索する書籍を1冊から全冊選択することなども可能となっています。さらにさまざまな角度から検索することが必要なことから治療薬マニュアルだけは、独自に検索できる画面を用意いたしました(図4)。



図4 治療薬マニュアル検索画面

5. その他の機能

また、初版からの基本的な機能として、リンク機能があります。掲載書籍の中でも最も多く使われるのは今日の治療指針で、その中でも多く参照されるのが、各疾患別に記述されている薬剤の“処方例”となります。臨床においてはその記述を参考に処方することも多いと思いますが、実際に処方する際には、禁忌や副作用などの詳しい情報を治療薬マニュアルにて確認する必要があります。その際に、処方例に設けたアイコンをクリックすることで、簡単に目的の薬剤の情報を参照することができます。さらに一部動画や音声も収録しており、写真や文字だけでは表現しにくい動作などについて補足的に説明をしています。

また当社では、当社発行の全雑誌を掲載したサイト“MedicalFinder”を、2009年より運営しており、過去7年分の各文献の概要までを、

読者サービスとして無料で公開しております。今日の診療WEB版にも、このMedicalFinderの検索サイトが、簡単に利用できるようなリンクボタンを設けており、今日の診療にて検索語を入力し、“MF”ボタン(図5)をクリックすると、MedicalFinderの検索結果が別ウィンドウで参照できるようになっております(図6)。仮に今日の診療WEB版とMedicalFinderをご契約いただいていると、今日の診療WEB版からの検索でMedicalFinderに掲載される文献の全文まで、シームレスに閲覧することができるようになっています。



図5 MFボタン



図6 MedicalFinder

Ⅲ. おわりに

以上、駆け足でご説明させていただきましたが、この誌面では語り尽くせない機能やメリットも、まだまだ数多くあるため、もしさらに詳しい資料などが必要な場合は、ぜひ私までご連絡をいただきたいと存じます。今日の診療WEB版は真に臨床のためのサービスであり、各病院などに導入いただくことで、必ずや各病院の医療に貢献できるものと信じております。